

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 2 日現在

機関番号：24501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770154

研究課題名(和文)チベット・ビルマ語派ルイ語群と周辺言語との言語接触にかんする研究

研究課題名(英文)A study of the Luish languages of Tibeto-Burman with special reference to thier neighbouring languages and language contacts

研究代表者

藤原 敬介 (HUZIWARA, Keisuke)

神戸市外国語大学・外国学研究所・客員研究員

研究者番号：00569105

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：チベット・ビルマ語派ルイ語群に属する言語のうち、バングラデシュではなされるチャック語、ビルマではなされるカドゥー語とガナン語について、主要な方言の基礎語彙調査を中心とした記述言語学的研究を数度おこなった。それらの言語に共通するルイ祖語の形式をさらに200語ほど同定した。チャック語については、Cak-English-Bangla dictionaryを作成し、バングラデシュから出版した。

研究成果の概要(英文)：Descriptive linguistic fieldwork on the Luish languages, especially on major dialects of Cak, Kadu and Ganan languages, has been carried out several times in Bangladesh and Burma. Some 200 Proto-Luish forms have been further identified. In addition, Cak-English-Bangla dictionary was finally published from Bangladesh.

研究分野：言語学

 キーワード：チベット・ビルマ語派ルイ語群 記述言語学 歴史言語学 辞書 方言調査 チャック語 カドゥー語
ガナン語

1. 研究開始当初の背景

- (1) 近年、チベット・ビルマ諸言語の研究は、未記述言語の臨地調査とその成果公開がすすんでいる。カリフォルニア大学バークレー校のシナ・チベット語語源辞典データベースに代表されるようなデータベースも整備されてきている。ただし、そのような中であって、チベット・ビルマ諸言語のなかでも派ルイ語群とよばれる言語群の研究は、その重要性が指摘されながら、応募者によるものをのぞけば、ほぼ皆無の状況である。
- (2) ビルマでの言語調査がやりやすくなってきたことにより、ビルマのザガイン管区ではなされているルイ語群の諸言語、すなわちカドゥー語とガナン語の調査について、現地ですさまざまな一次資料を収集するみとおしがたってきた。
- (3) 他方、応募者が十年以上かかわってきているチャック語について、辞書を作成する準備がととのってきた。

2. 研究の目的

- (1) ビルマ・ザガイン管区ではなされているカドゥー語とガナン語について、基礎語彙調査を中心とした臨地調査により、言語特徴の把握につとめる。
- (2) カドゥー語やガナン語に影響をあたえているタイ系言語のひとつであるタイ・ナイン語の調査をすすめる。
- (3) チャック語の辞書を作成し、バングラデシュから出版することで、成果を現地に還元する。

3. 研究の方法

- (1) カドゥー語とガナン語の調査については、東京大学の故・服部四郎教授による『基礎語彙調査票』を基本とし、東京外国語大学の 新谷忠彦 名誉教授による『シャン文化圏言語調査票』から適宜語彙を補充して応募者が独自に作成した、「ルイ語群言語調査票」をもちいる。
- (2) 基礎語彙調査ではわからない文法項目については、大阪大学の加藤昌彦准教授による『エクスプレス・ビルマ語』から精選した文法項目および例文をもとに作成した調査票をもちいる。
- (3) チャック語の辞書作成にあたっては、応募者が十年来作成してきた「チャック

語・日本語語彙集」を基本とし、それを英語とベンガル語に翻訳しつつ、適宜例文をおぎなう。

- (4) タイ・ナイン語の調査については、ビルマ・マンダレー市でタイ・ナイン語話者の協力をあおぎ、基礎的な調査をすすめる。平行して、ビルマではなされる最大のタイ系言語であるシャン語について、大阪大学の留学生に協力をあおぎ、基礎語彙調査と文法の調査をすすめる。

4. 研究成果

- (1) カドゥー語については、これまで比較的良好に知られていたセッター方言やモーテイツ方言だけではなく、モークワン方言やモーラン方言についても基礎語彙を収集することができた。それらの語彙資料をもとに、カドゥー語諸方言の系統分類をこころみた。また、カドゥー語モーテイツ方言について先行研究ではみのがされていた声調の交替現象を記述した。
- (2) ガナン語については、これまで調査してきたシュウェージャウン方言のほかに、ナンザー方言についても基礎語彙資料を収集することができた。両方言間には、カドゥー語諸方言にみられるほどの差異はないことを確認した。
- (3) チャック語については、十年来の課題であった辞書の作成を完了し、バングラデシュの A H Development Publishing House から出版した。このほか、チャック語に関連する民話資料を二編発表した。また、チャック語にみられる入破音の起源について考察する学会発表をおこなった。
- (4) シャン語の調査については基礎語彙調査をおわらせた。その資料を参考に、タイ・ナイン語の調査をすすめた。しかし、まだ成果を公表するほどの量と精度の資料があつまっていない。
- (5) 研究計画段階では渡航がむずかしかったインド・マニプール州が近年外国人にも門戸を開放するようになったので、州都インパールに渡航した。そして、現地であつてはなされていたルイ語群のチャクパ語について現状を調査した。先行研究によると、チャクパ語はすでに死語である。そしてチャクパ人はマニプール州の公用語であるメイテイ語の方言をはなす。だが、調査の結果、チャクパ人は伝統的な儀礼の中で現在でもチャクパ語を使用することがあるとわかった。儀礼を記録した資料や、儀礼をよく知る古老たちは、

断片的にはあるけれども、チャクパ語をしっていた。ただし、そのような儀礼言語を調査することはきわめて困難であることもわかった。研究成果としては、チャクパ語のひとつであるアンドロ語について、既存の語彙資料を分析し、最新の研究成果をふまえつつ、文法の再構をこころみる学会発表をおこなった。また、チャクパ語とちかい関係にあるとされる死語であるチャイレル語についても、のこされた語彙資料を精査し、チャクパ語との系統関係を考察する学会発表をおこない、チャクパ語とは同系統とはいえないと結論づけた。

- (6) 研究期間中に国際ベンガル学会が日本で開催された。その機会に、日本語にみられる、いわゆる「人魚構文」(「太郎は東京に行く予定だ」といった種類の構文で、前半が名詞を修飾する動詞文であり、後半が名詞述語に「だ」がついたような構文のこと)に類似したものがベンガル語にも観察されるという内容の学会発表をおこなった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

- (1) 藤原敬介. 2016. 「チャック文字によるチャック語の民話「ある日のカラス」」『印度民俗研究』15: 104-126. [査読無]
- (2) 藤原敬介. 2015. 「チャック文字によるチャック語表記上の課題」『京都大学言語学研究』34: 1-24. [査読有]
- (3) 藤原敬介. 2015. 「マルマ語の民話「三つのねがい」」『印度民俗研究』14: 99-116. [査読無]
- (4) 藤原敬介. 2015. 「チャック語の民話「三つのねがい」」『印度民俗研究』14: 85-97. [査読無]
- (5) 藤原敬介. 2014. 「ルイ祖語の再考」『京都大学言語学研究』33: 1-32. [査読有]
- (6) 藤原敬介. 2014. 「チャック語の民話「オウムの話」」『印度民俗研究』13: 85-101. [査読無]
- (7) 藤原敬介. 2013. 「カドゥー語音韻論」『東南アジア研究』51(1): 3-33. [査読有]

〔学会発表〕(計 6 件)

- (1) HUZIWARA, Keisuke. 2015. A contrastive study of external adnominal clauses in Japanese and Bangla. 2015-12-12. The 4th International Congress of Bengal Studies. Tokyo University of Foreign Studies. (東京都府中市)
- (2) 藤原敬介. 2015. 「カドゥー語諸方言におけるモークワン・カドゥー語の位置について」2015年6月20日、日本言語学会第150回大会、大東文化大学。(予稿集 pp. 326-331)(東京都板橋区)
- (3) 藤原敬介. 2014. 「タマン語の系統再考」2014年11月30日、日本歴史言語学会第4回大会、国立民族学博物館。(大阪府吹田市)
- (4) 藤原敬介. 2014. 「チャイレル語の系統再考」2014年6月7日、日本言語学会第148回大会、法政大学。(予稿集 pp. 272-277)(東京都千代田区)
- (5) HUZIWARA, Keisuke. 2014. Cak implosive stops and their cognates in Tibeto-Burman. 2014-05-28. 24th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society. University of Yangon, Yangon (Burma).
- (6) 藤原敬介. 2013. 「アンドロ語文法の再構」2013年12月1日、日本歴史言語学会第3回大会、東北大学。(宮城県仙台市)

〔図書〕(計 1 件)

- (1) HUZIWARA, Keisuke. 2016. *Cak-English-Bangla dictionary (a Tibeto-Burman language spoken in Bangladesh)*. Dhaka: A H Development Publishing House. xxxiv + 545pp.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
researchmap.jp/kej/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤原 敬介 (HUZIWARA Keiske)
神戸市外国語大学・外国学研究所・客員研究員
研究者番号：00569105

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：